

# 強者の戦略

【中東近現代はオスマン帝国の衰退から】

新年明けました。「おめでとう」をいうのは受験が終わるまでとっておきたいと思います。

ある人から「太っているというよりむくんでいるよね」と言われた北林です。受験生の皆さんと一緒に、知らず知らずのうちになかなかこの時期は休めていないんでしょうね。

私もみなさんと一緒に、受験が終わるまで体調に気をつけてがんばります。ま、むくまなくなっても丸いのは変わりませんがね(笑)。

毎度のことですが、スパルタンの URL も貼っておきます。復習にオンデマンドを一気に見るのはけっこう効果ありますよ。スパルタンのホームページはこちらです(東大も京大も医学部も高2もこちらからです)

→ <http://spartan.kenshinkan.net>

さて課題にしていた問題を確認しましょう。

## 問題

16世紀以来、オスマン帝国領であった中東アラブ地域のうち、エジプトやクウェートは19世紀末までに英国の保護下に置かれ、第一次世界大戦後、残りの地域も英仏両国により委任統治領として分割された。やがて諸国家が旧宗主国の勢力下に独立し、ついにはその勢力圏から完全に離脱するにいたった。1910年代から1950年代までの、この分割・独立・離脱の主要な経緯について300字以内で述べよ。解答は所定の解答欄に記入せよ。句読点も字数に含めよ

(2005年 京都大学)

この問題は研伸館の冬期講習で扱い、また「京大スパルタン」でも最終の回に密かに扱っておりました。

中東の近現代史ですが、まずはオスマン帝国(トルコ)が弱体化し、ナショナリズムがもりあがって独立の運動がおこります(パン=スラヴ主義は覚えていますね)。そしてこの地域には南下を狙うロシアとエジプトを通してアジアへ向かうイギリスが入ってきて東方問題がおこります。

また他に中東地域にあった国として大きな勢力はイランのカージャール朝です。こちらもロシアとイギリスが圧迫することによってずいぶん苦しめられます。19世紀はロシアとイギリスがユーラシアのいたるところで衝突をするんです。これはグレートゲームなんていわれたりします。19世紀のロシアの南下が引き起こす変化については、最近では2014年の東京大学の第1問で出題がありました。

# 強者の戦略

《ワンポイントアドバイス》

まずは「この(オスマン帝国)分割」です。オスマン帝国が分割するということですから、セーヴル条約を真っ先に思い浮かべたことでしょう。たしかにそれも大切なんですが「1910年代」とあるので、イタリアがトリポリ・キレナイカ(現リビア)を獲得したあたりから書くこともできます。また他にも、1914年に大戦が始まってイギリスがエジプトを正式に保護国化したことも分割ととっていいかと思います。フサイン-マクマホン協定にもとづきヒジャーズ王国ができたことを入れてもいいでしょう。そして大戦後のセーヴル条約で帝国の解体が決定的になりますね。英仏による委任統治領は書けたでしょうか。

そして「独立」なんですが、「諸国家が旧宗主国の勢力下に独立」と問題文にあるように、列強の影響の元で王国として独立をします。

一次大戦後のパリ講和会議では、ウィルソンの十四カ条が基本となり、戦後の世界や講和条約などが規定されていきます。そこで世界中で「民族自決」に注目が集まりますが、実際は英仏の都合の良いように使われることになり、民族自決は実現、とまではいきませんでした。そりゃそうですね。民族自決を声高に唱えてしまうと、英仏の植民地は次々独立をする。世界で一番二番の植民地を持つ両国からすると、そんなことは実現させるわけにはいきません。結局一次大戦後に東南アジアやインド、アフリカなどの列強の植民地だったところでは独立はありません。

ただ、この中東だけは独立があります。ただし列強の影響のある中での独立です。1922年のエジプトは思い浮かべやすかったでしょう。サウジアラビアも成立します。委任統治領になったところでも、その後列強の影響を残したまま独立があることを忘れてはいけません。広く考えると二次大戦後のイスラエル成立もその後の中東戦争を見れば、列強の介入が何かと続いていると考えることもできます。

最後に「(その勢力圏から完全に)離脱」ですが、エジプトが中心となる第二次中東戦争、いわゆるスエズ戦争はすぐに思い浮かんだでしょう。これで英仏は撤退するわけですから、忘れないで書いてほしいですね。意外と書けないのが、イラク。委任統治になりその影響下で王国となりますが、二次大戦後には革命が起こり親英の王政が倒されます。共和国となったイラクはイギリスなどが中心である反共組織である中東条約機構(METO バグダード条約機構)から脱退します。これも列強の勢力下からの離脱です。

というわけで、簡単な説明をしてきましたが、以下、一つの例として「京大スパルタン」で使用した構成メモの画面を載せておきます。希望があれば添削いたしますので、遠慮なくもってきてくださいね。中東近現代は様々な大学で出題されますから、しっかり復習しておいてください。

# 強者の戦略

1910年代から1950年代まで

**第一次大戦前後 第二次大戦後**

**オスマン帝国領の分割・独立・離脱**

## 分割

イタリアにトリポリ・キレナイカを奪われる(イタリア-トルコ戦争)

セーヴル条約で大幅な領土の削減・帝国解体→分割された領土は英・仏の委任統治

大戦中の1914年にエジプトが正式に保護国化 フサイン-マクマホン協定でヒジャーズ王国

## 独立

委任統治領やその他列強支配下の多くは、王国として独立。 イラク・ヨルダン  
シリア・レバノンなど

1922年エジプト王国 → 英は運河駐兵権 サウジアラビア成立

イスラエル建国→中東戦争 列強の介入

## 離脱

リビア独立...イタリアから

エジプトがスエズ戦争(第二次中東戦争)でイギリスの勢力圏から離脱

イラクも革命で親英の王政が崩壊し、中東条約機構から離脱

《解答例》

第一次大戦前にオスマン帝国からイタリアにリビアが奪われ、大戦後セーヴル条約で解体、イラク・ヨルダン・パレスチナはイギリス、シリア・レバノンフランスの委任統治となった。後に英仏の下でシリアやイラクが王国として独立、アラビア半島でサウジアラビアが成立、エジプトも独立したがイギリスのスエズ運河駐兵権はそのまま残った。第二次大戦後、パレスチナにイスラエルが成立すると中東戦争が勃発、列強の介入は続いた。リビアはイタリアから独立、エジプトは革命で共和国となり、ナセルのスエズ運河国有化を機に第二次中東戦争がおこり英仏の影響下から脱した。イラクも革命で親英王政が崩壊、METO から脱退してイギリス勢力圏から離脱した。(300字)